

「宇部市民ソフトバレーボール大会」 ルール

[平成 24 年 9 月 13 日改正後]

1 施設と用具

1 コート

- (1)コートは、13.40m×6.10m(バドミントンコートの外側ラインを使用)の長方形の平面でその外方に最小限 2mと、コート面から上方に 7m以内にはいっさいの障害物があってはならない。
- (2)区画線は、幅 4cmの線によって囲まれる。コートの長い側の区画線をサイドライン、短い側の区線をエンドラインと呼ぶ。これら区画線はコート内に含まれる。

2 ネット

- (1)ネットは、バドミントン用ネット、または(財)日本バレーボール協会制定ソフトバレーボール用ネットを使用する。アンテナは、ネット上端から 1.0m上方に出るように、1 本ずつ支柱の外側に取り付ける。
- (2)ネットの高さは、バドミントン用支柱を用い、補助支柱を継ぎ足して 2.0mとする。

3 ボール

ボールは、(財)日本バレーボール協会制定ソフトバレーボール(ゴム製、重さ 210±5g、円周 78±1cm)を使用する。

2 ゲームの準備と進行

1 ウォーミングアップは、各チームで行う。特に、公式練習時間は持たない。

2 ネット

- (1)タイムアウト
各チームは、1 セットにつき 2 回のタイムアウトが認められる。このタイムアウトは、1 回につき 30 秒以内とする。
- (2)選手の交代
各セットの選手の交代は、4 回以内とする。

3 コートの交代

各セットごとにコートを交代する。最終セットはいずれかのチームが 8 点になった時点で交代する。(3 セットゲームは、2 セット終わった時点で両チームのキャプテンがコイントスをし、サーブ若しくはコートを選択する。)

4 競技者の位置とローテーション

- (1)サーブが打たれる瞬間には、各チームはサーバーを除いて 2 人ずつ 2 列に並んで各自のコート内に位置しなければならない。
- (2)ネットに沿って位置する 2 人の競技者はフォワード競技者で、ポジション③、②の位置を占める。他の競技者はバック競技者で、それぞれのポジション④、①の位置をそれぞれ占める。
- (3)サーブ権を得たチームは、図のようにただちに時計の針と同じ方向へ選手を一つずつ移動する。

から打ってもよい)

ウ サービスは、相手チームにサービス権が移行するまで、同じ競技者が続けて打たなければならない。

エ ジャンプサーブは禁止とする。

(2)アタック・ヒット

アタック・ヒットは、前衛の2人のみ行うことができる。

(3)ブロック

前衛のものに限り、相手のプレー後、ブロックすることができる。

(4)同時の接触

同一チームの2人の競技者が同時にボールに触れたときは、1回触れたものとみなす。この場合、いずれも引き続いてそのボールに触れることができる。

(5)アタックライン

ア 後衛の競技者がアタックラインを越えて打つ場合は、下手打ちかトス打ちとする。

ただし、トス打ちの場合は、ボールがネットを越えて直接相手コートに入ってはならない。

イ 後衛の競技者がアタックラインの後方からアタックし、着地したときは、着地した足がアタックラインを踏み、又は踏み越えてはならない。

2 以下のプレーがあったときは反則となり、相手チームに1点が与えられる。

(1)オーバータイムス

ネットを越えて相手方コートに打ち返すために、ボールへの接触回数がブロックに加えて最大限3回を超えたとき。

ただし、ブロック後の1回目の接触は、ブロックのときボールに触れた競技者を含んで誰にでも許される。

(2)ホールディング

ボール接触中、明らかにボールが止まるようなプレーがあったとき。

(3)オーバーネット

ネットによって分けられた相手方コート上のボールに触れたとき。

(4)タッチネット

インプレー中にネットに触れたとき。

ただし、相手側の打球によりネットがふくらんでネットに触れたときはタッチネットにならない。

(5)ドリブル

明らかに同一競技者が、2度続けてボールに触れたとき。

ただし、チームの第1回目の接触は指を用いたオーバーハンドによるプレーでないかぎり身体の2か所以上に連続して当たってもよい。その接触は1つの動作中のものに限る。

(6)フットフォールト

サービスの打球時に、エンドラインに足が触れたり、味方コートに入ったとき。

(7)アウトオブポジション

サービスが打たれた瞬間に、それぞれの競技者が正規のポジションに位置していないとき。

(8)インターフェアア

ネット下から相手のプレーを妨害したとき。(パッシング・ザ・センターラインはなしとする。)

(9)サービスフォルト

サービスがネットに触れるか、相手チームの競技者に触れずに相手コートの外に落ちたとき。

(10)アタック・ヒットの反則

サービスされたボールを、アタック・ヒットして、そのボールがネット上方の垂直面を完全に通過し、又は相手方競技者に触れたとき。

(11)ブロックの反則

サービスされたボールを、直接ブロックしたとき。

<解説>

ボールがアンテナだけに触れた場合は、アウトバウンズとなるが、支柱(アンテナと支柱への同時接触)に触れた場合は、生きたボールとなる。

(12)サーブレシーブの反則

サービスされたボールを直接オーバーで返し、そのボールがネット上方の垂直面を完全に通過し、又は相手方競技者に触れたとき。